



北 中 だ よ り

学校教育目標「自ら考え なかまと磨き合う 北中」

菊池北中学校
学校だより
No41
文責 芹川博文
2月21日(金)

「のぼり坂」と「夢と希望」とのつながり

～ 菊池北小中学校の坂の登り口にある看板から ～

「この坂を登ると“夢”と“希望”がある」

今週は寒い朝が続きました。そんな朝、この看板を改めて眺め写真を撮りました。この看板が設置されている北小中学校に続く坂道を、毎朝歩いて登ってくる生徒たちがいます。一步一步踏みしめながら心と体を鍛えたことでしょう。一見、違いは感じにくい日々の積み重ねですが、菊心魂の「一日の稽古を鍛といい、千日の稽古を錬という・・・」に繋がります。

この看板から「登り坂」と「夢と希望」とのつながりを考えました。登り坂できつい思いをするからこそ見える景色があります。そして自分の足で歩くからこそ感じる達成感があります。

私事で恐縮ですが、旭志の鞍岳に登るのが好きです（最近は行けていませんが）。登山コースも選べて山も選べます。雄岳、雌岳、孫岳、そしてツームシ山など色々あります。そんな中、実は九合目まで車で行くことができます。麓から登るのと大違いで、30分もあれば山頂に着けます。便利です。楽です。しかし、違うのです。景色は同じでも達成感、山頂でのおにぎりのおいしさ、下山して入る温泉、全てにおいて大違いです。やはり、自分の足で歩く時の方が、はるかに心が動きます。

中学校生活も似ているのではと思います。目標や「なりたい自分」を目指し、日々努力を積み重ねるからこそ、成長があり感動があります。流した汗の一滴一滴がこれからの自分をつくっていく、それが「夢や希望」へとつながっていくと思います。

北中の駐車場奥にある木（木れん？こぶし？）が、びっしりと蕾（つぼみ）をつけていました（右の写真）。寒さ厳しい朝、青空に向かって春を目指しているように見えました。

今年度も残りわずか。声を掛け合い登り切りたいものです。

地道な半歩を大事にできるかが 大きな差となる

イチロー（元メジャー・リーグ野球選手）



「平和という土台」を見つめて

～ 県内高校生平和大使3名の来校を前に ～

3月10日に県内の高校生平和大使3名が来校予定です（1年生の平和学習）。その中の一人は昨年末ノーベル平和賞受賞式に出席した高校生です。中学生にとって近未来の姿である高校生の行動や考えから新たな力を得る機会になればと思います。

現在、私たちは「平和という土台」の上で生活しています。しかし、それが「当たり前」ではないことを、ウクライナや、ガザの報道で知ります。彼らも前日まで「当たり前」の日常を過ごしていたはず。日本でも有事に備えた準備が進んでおり熊本も例外ではありません。私は約10年前、中東のカタール（ドーハ日本人学校）に3年間勤務しました。上の切手はカタールの記念切手です。血の涙を流しているデザインに驚きました。「なぜ？」と聞くと、「ガザの人々への思いが込められた切手で、血の涙は心の底からの思いを意味します。」とのことでした。切手の上には「カタールはガザのために涙を流しています」とアラビア語と英語で記されています。

他者の苦しみへの「無関心」に抗い、その人の思いを知ろうとすることが、平和への一歩になると確信します。平和大使の高校生の思いを直接聞く機会を、大切にしたいと思います。



「“平和には戦争以上の力があり、平和には戦争以上の忍耐と努力がいる” 中村 哲さんが繰り返し語っていた言葉です。」

（「カカ・ムラドー中村のおじさん」より）